

# 永久的ペースメーカーの適応となった —透析例

—ペースメーカーの適応に至るまでの心電図変化—

元町HDクリニック

臨床検査部

清水 康

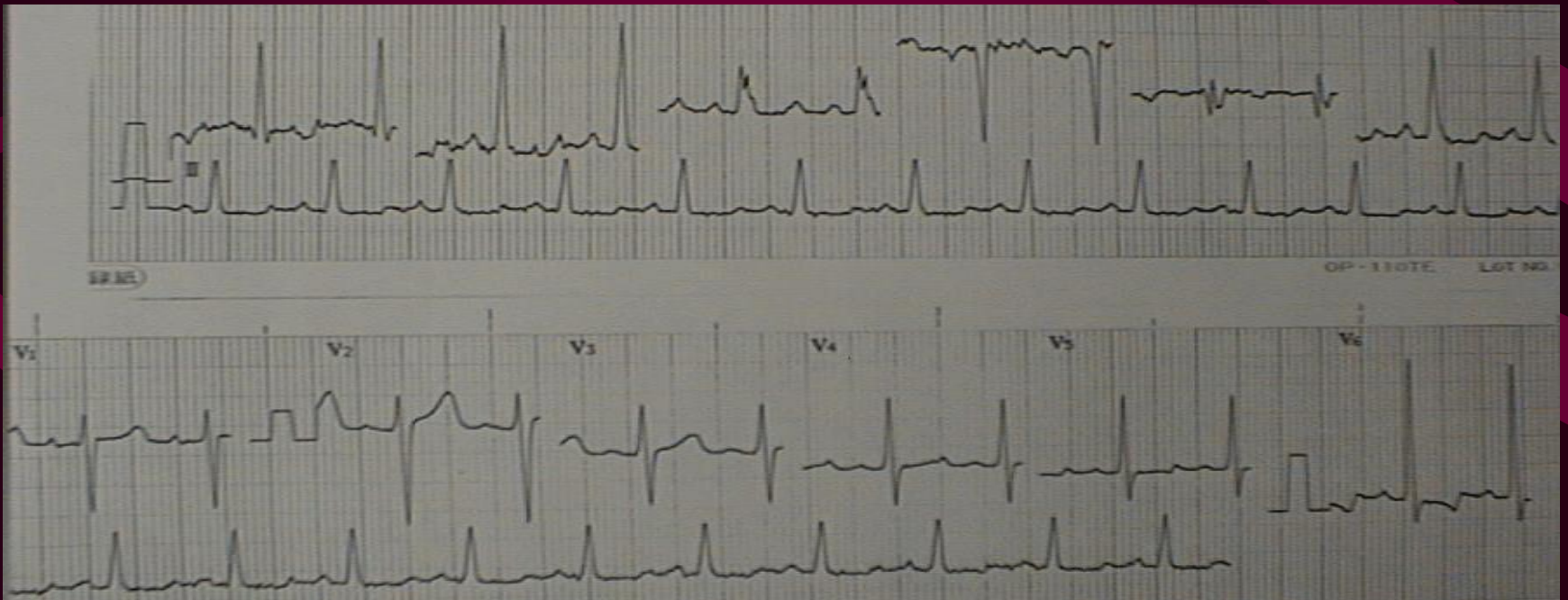
# 症例

39歳女性。

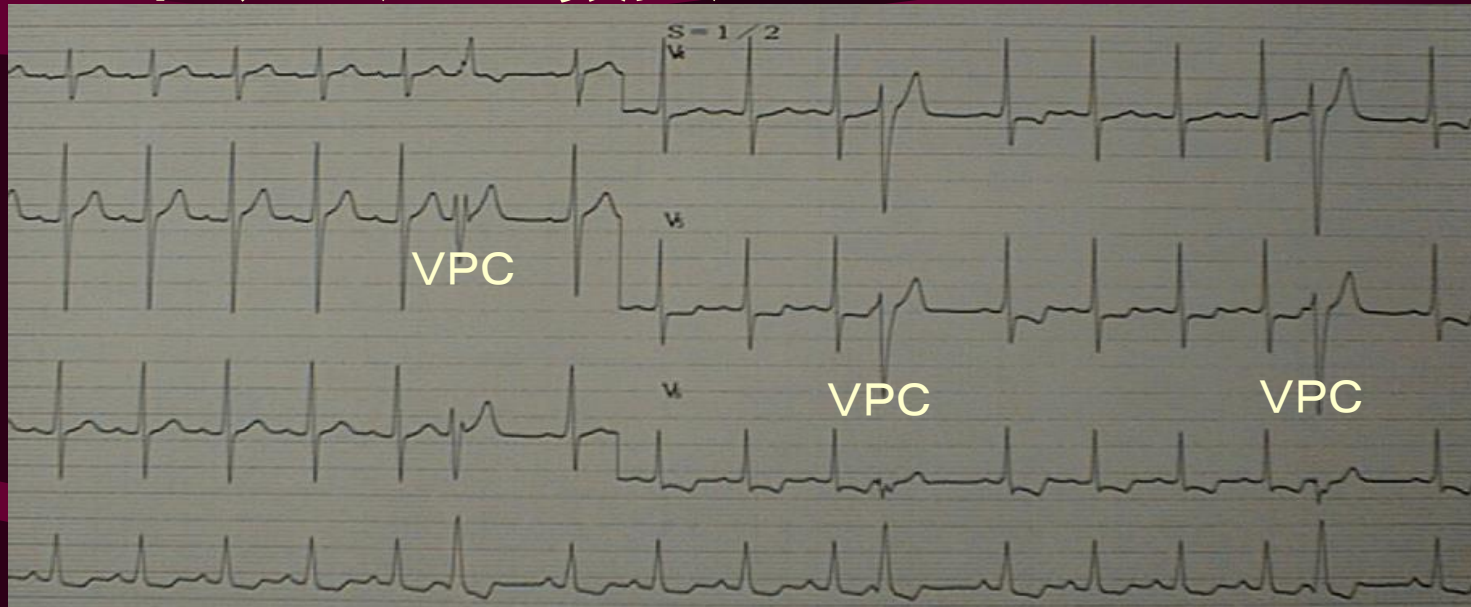
1975年(17歳時)慢性腎不全により血液透析導入。

1985年より当院にて維持透析。透析歴22年。

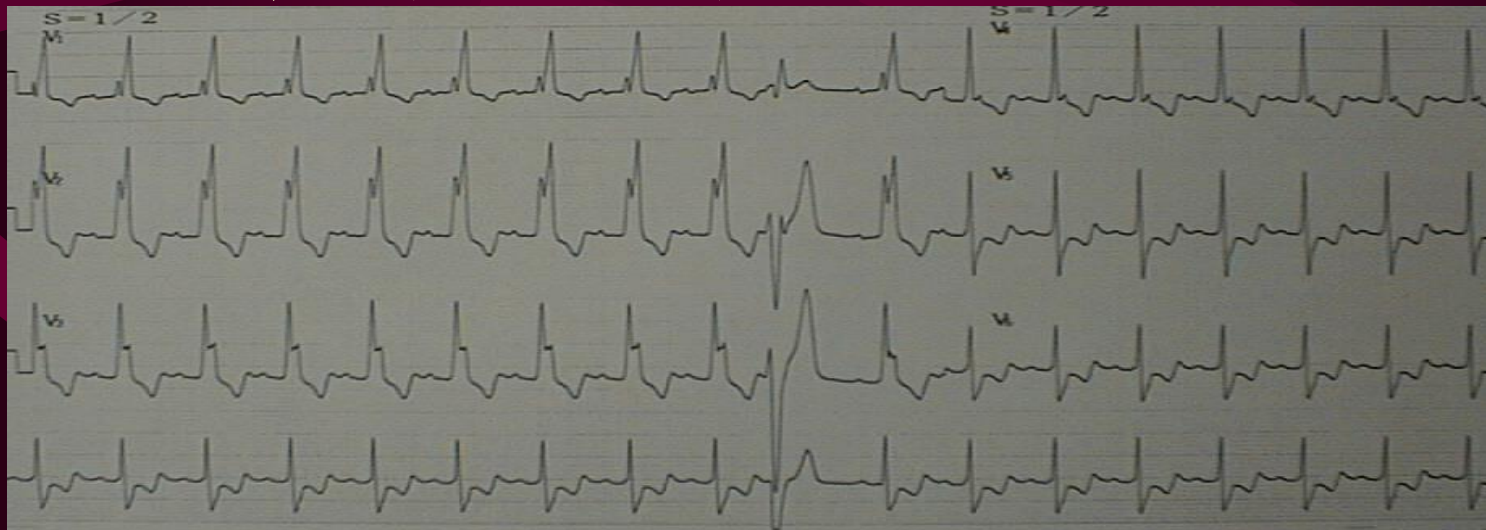
**当院転入時の心電図 (洞性頻脈、左室肥大)**



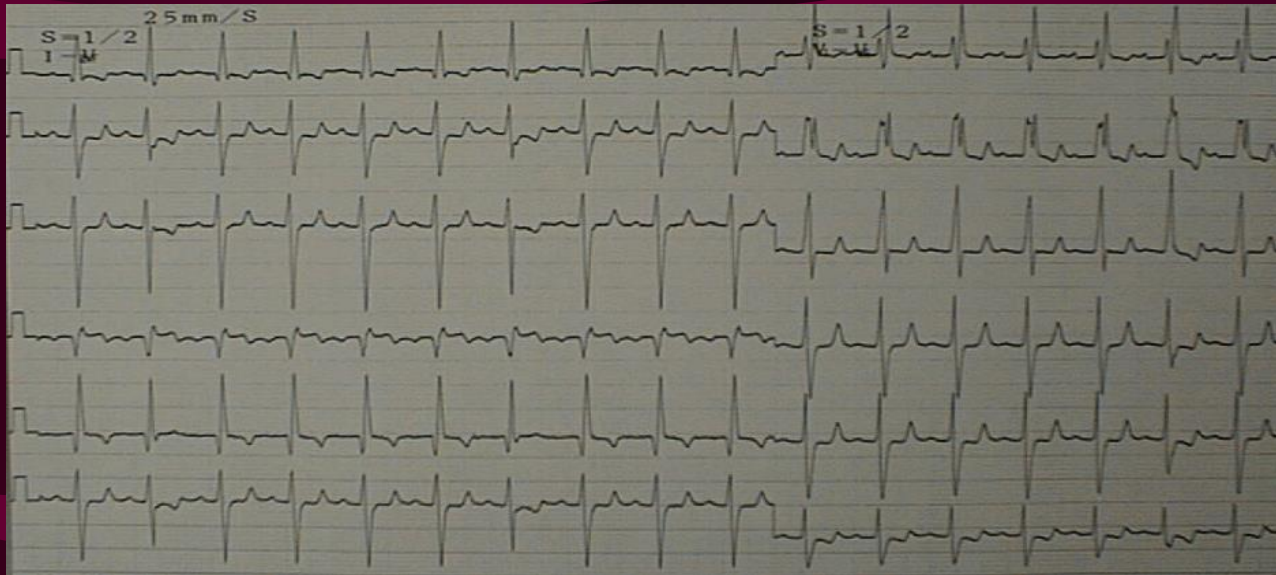
# 92年6月 (VPC頻発)



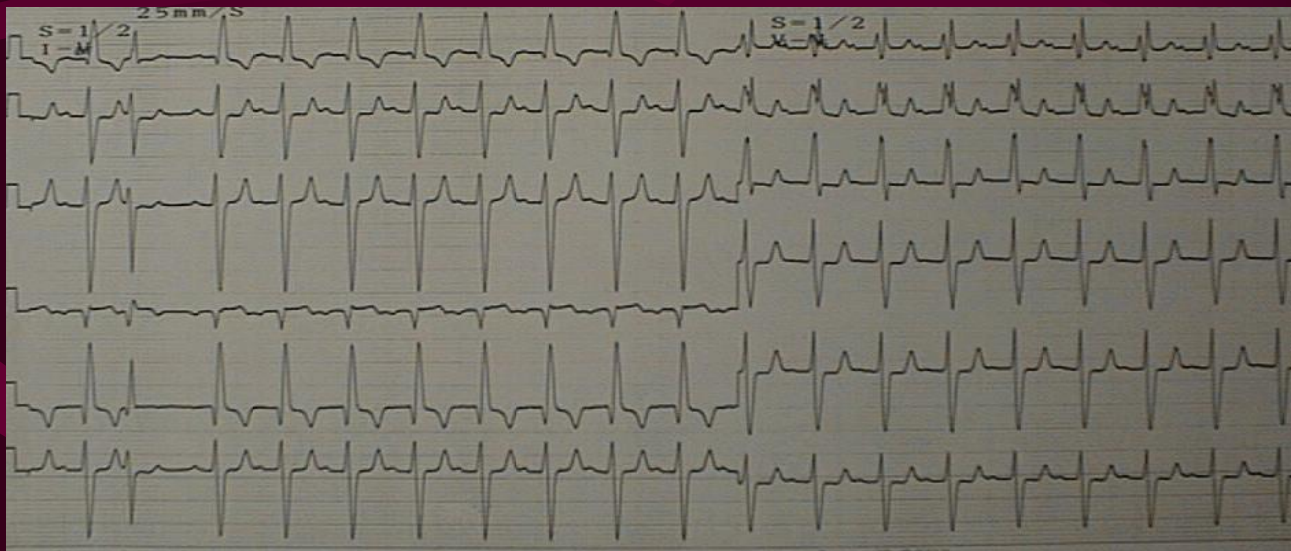
# 92年8月 (CRBBB)



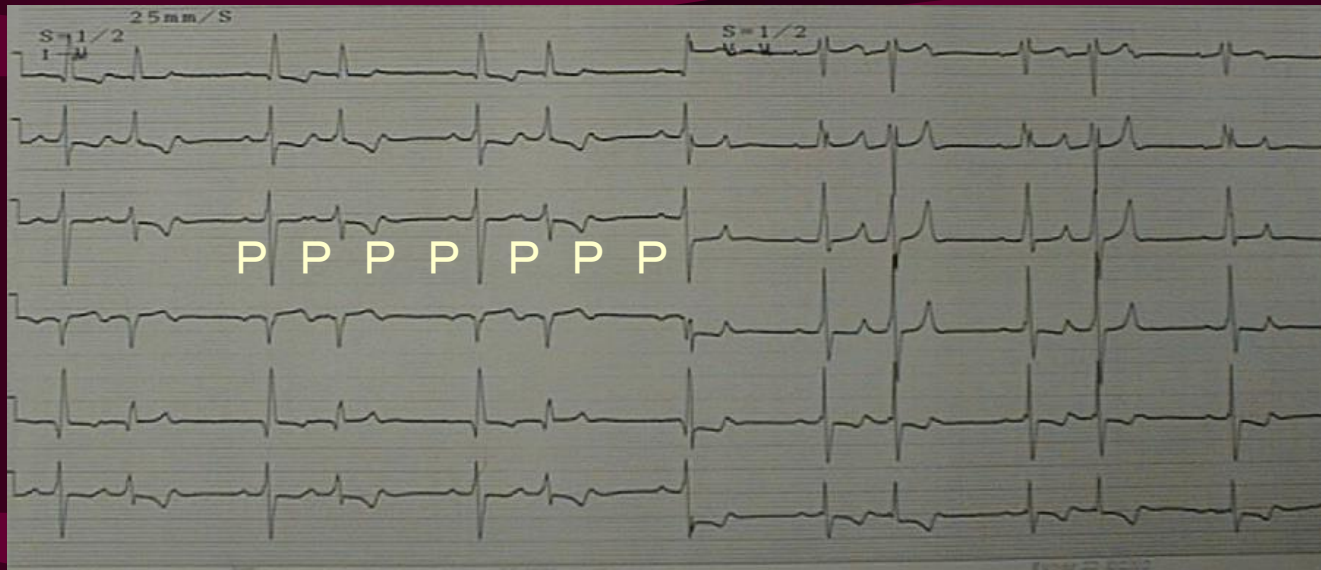
# 94年9月 (CRBBB+左脚前枝ブロック)



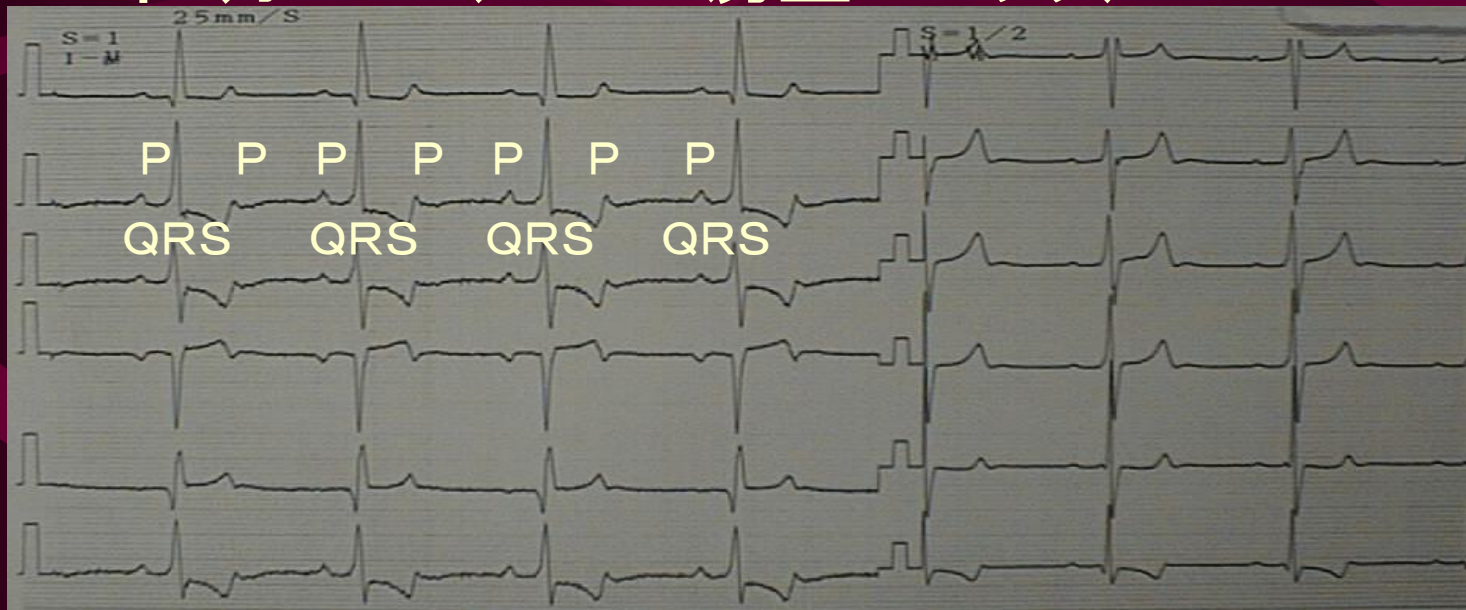
# 95年7月 (三束ブロック)



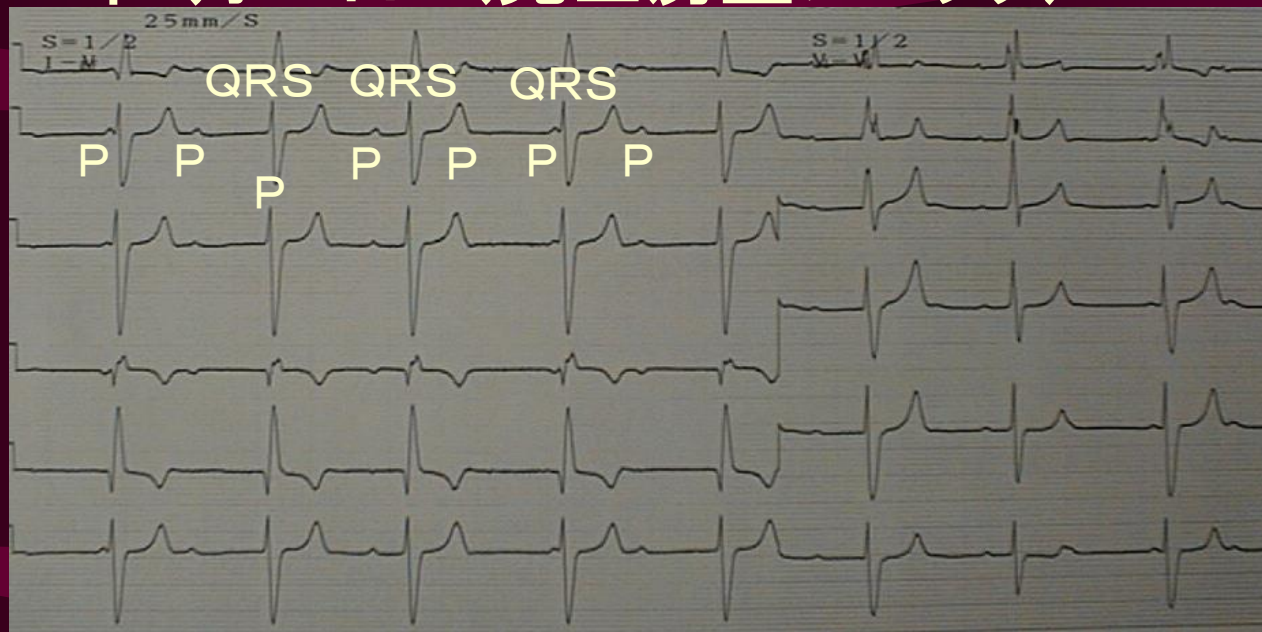
# 97年7月1日 (3:2と2:1の房室ブロック)



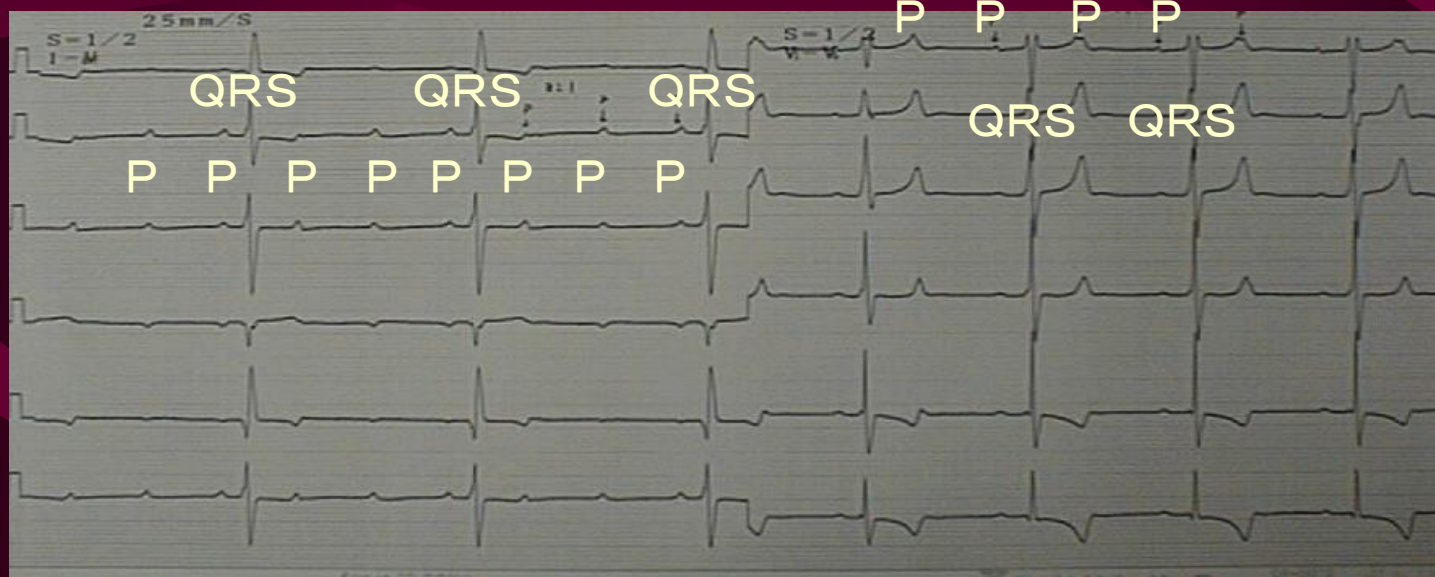
# 97年8月5日 (2:1の房室ブロック)



# 97年8月19日 (完全房室ブロック)



# 97年8月26日 (3:1と2:1の房室ブロック)



# まとめ

1. 刺激伝導系の障害が徐々に高度になり完全房室ブロック、高度房室ブロックにて永久的ペースメーカー植え込みを必要とした一透析例の心電図変化を報告した。
2. 透析患者に定期的な心電図検査は必須であり、伝導障害の程度判定にも有効であり、その経過観察は重要と考えられた。